

第2回 Kawa-Bay 未来投資会議 議事録要旨

日 時	平成29年10月1日（日）	時間	10：00～12：00
場 所	川辺町やすらぎの家 2階研修室		
内 容	比久見地区工場跡地を活用したまちの活性化策を検討する会議		
出席者	別紙名簿のとおり		
▼議事			
(1) 座長あいさつ			
(2) 町長あいさつ			
(3) 比久見地区工場跡地に係る町の動静について			
(4) コミュニケーションタイム			
(5) 意見交換			
(6) 今後のスケジュールについて			
(7) 座長あいさつ			
▼議事概要			
(1) 座長あいさつ			
・委員に対して今日の会議への参加のお礼。			
・東京、名古屋など一部の都心部では地価高騰が伝えられているが、一方で地方は人口減少や空き家増が急速に進んでおり非常事態となっている。			
・こういう中で川辺町をこれからどうしていくのか、どうしていくともっとよい町になるのか、もっと住みやすい町になれるのか、お集まりの皆さん方の英知を結集して一つの大きな将来目標を掲げ、その実現に向けていきたい。お金の問題もあるかと思うが、これについてもお知恵を借りながら進めていきたい。			
・前回町長が長江製陶の跡地活用とはっきり打ち出しているが、それは議会の方でもなかなか難しいと聞いている。未来の投資会議なので、もっと広い視野で町全体を見て議論していきたい。			
(2) 町長あいさつ			
・委員に対して今日の会議への参加のお礼。			
・会場内後方や周辺に並べた「広報かわべ」や川辺の風景、「川辺かるた」など様々なパネルや資料、それと町プロモーションビデオについて紹介。			
・今日川辺漕艇場で開催されている「第26回中学校新人競漕大会」の紹介。			
(3) 比久見地区工場跡地に係る町の動静について			
・事務局（企画まちづくり課長）から会議資料の確認と概要説明。			
・続いて町長から議題について概要説明。			
・Kawa-Bay未来投資会議の予算について6月議会にて開催経費など補正予算を認めていただいたが、この会議を担当する専門職員として同時に提案した副町長条例は否決された。さらに9月議会では、工場跡地の履歴調査に係る費用を予算提案したものの、土地の利用目的が明確でないことなどを理由に認め			

ていただけなかった。

- ・9月28日に工場跡地の所有者である長江興産の事務所を訪ね、社長と会長とお会いした。（この会議の）ファシリテーターであるA委員にも同行していただいた。会長の考えは、できれば賃貸を希望されており、具体的な坪単価までおっしゃられた。ただ経営は娘婿である社長に移っているの、社長とは4月にお会いしたときに売却も選択肢にあることを聞いている。座長からは、ここの場所に限らずもっと大きな範囲で考えていこうとご提案いただいたがもしここを我々のプロジェクトの場所にするとすれば、購入の可能という一つの希望を持っている。
- ・当日の会議資料の中に、自分自身が視察してきた2つの施設のパンフレットを用意した。一つは全国交流レガッタが行われた秋田県由利本荘市の「アクアパル本荘ボートプラザ」で、もう一つは川辺町と友好町である福井県美浜町の「美浜町生涯学習センターなびあす」。どちらも多目的複合施設として住民に利用されているので、参考までに出させていただいた。
- ・事務局からの補足。議会で否決された土地の履歴調査とは土壌汚染の可能性がないかを確かめるための事前調査で、過去にどのように利用され、どの程度のタイルが埋まっているのかといった簡易調査になる。この調査を踏まえた上でないと開発に進めない、必要な調査である。議会に納得いただけるような計画を作っていくために、この会議が大変重要な位置づけになるので、お力添えをいただきたい。逆に今の状態のままでも利用できる方法も模索していく必要もあるかと思うので、様々な視点からご検討いただきたい。

（４）コミュニケーションタイム

- ・事務局から説明。約30分間、会場を開放して委員同士のフリートークの時間を設ける。
- ・冒頭町長からも紹介した会場内に展示した川辺町に関する様々な資料を見ていただきながら、自由闊達に意見を交わしていただく時間とした。

《展示資料》

町全体を写した航空写真、過去一年間の町広報誌「広報かわべ」、広報資料として撮影した町の風景写真（景色、人、行事）、1/10000の白図、ふるさと愛好会作成の大北三山紹介ポスター、昔の川辺町写真パネル、川辺かるた原画、各種冊子（町勢要覧、第5次総合計画、町総合戦略、町人口ビジョン、おでかけマップ、川辺町史、川辺学研究（川辺学研究会作成）、川辺かるた）町プロモーションビデオの上映

- ・バルコニーも開放して、目の前の漕艇場で開催中の中学校新人競漕大会を観覧していただく。

（５）意見交換

- ・ファシリテーターが進行。
- ・前回の会議に欠席された、3人の委員から自己紹介していただく。
- ・第1回会議の振り返りと補足。土地の購入については、場所のロケーションが非常に良く、一部産業廃棄物の問題の指摘もあったが、大筋でここを活用していこうという話しでまとまった。ただし、先日所有者との面談では賃貸を希望していることから、この点についても検討していかなければならない。
- ・今日の会議に合わせてB委員から提出された「C．D．K構想」について説明をいただく。

- ・この提案は「川辺ボートコミュニティ」という町のボート振興を目的とした団体の定例の会議の中でまとめた意見で、ボートを中心にした意見、ボート

をやっている人間側から、工場跡地に何か施設を作るのであればこういうのを入れて欲しいという要望ということでご理解いただきたい。（B委員）

- ・国の援助を得るには、土地の取得が必要条件か。賃貸の土地だと補助金の申請は難しいのではないかと。（C委員）
- ・借地ではほぼ不可能だと思われる。官主導の施設を作ろうと思うと、国・県の補助金がないと無理だとは重々分かっている。土地を買うお金と、そこに何か作るお金と二重に生じてくるので、それを行政のみで支出するのは非常に難しい。通常の小学校や道路の維持管理にもお金がかかっているの、やる以上は土地を購入して国などから補助金を獲得していくというのも一つの方法であると思う。（事務局長）

- ・（スポーツクラブコパンは）愛知県の高浜市で、行政側からの働き掛けでプールの移転とともに、幼稚園から小中学校までの授業も請け負うことになって準備を進めている。行政は（費用などの点から）プール施設の維持管理ができないから授業ごと民間に委託することにして、児童生徒をバスでプールまで送迎する。民間業者は赤字経営には手を出さないから他者はおそらく手を挙げないだろう。初期投資で相当かかるもののコパンはすでに高浜市でスポーツクラブを運営しており、たまたま移転するだけだから会員数もわかっているの、引き受けることができた。またその他の事例では、まだ具体的に公表できないがある市では、市が取得した土地にホテルとスポーツクラブの誘致を検討しており、コパンが施設の建設と運営することを条件に手を組むことになった。これにより（建物の）固定資産税が入ってくるので議会からも認められた。我々も（施設が）空いている時間に小学生の水泳指導ができるのでメリットがあり、このように官と民で合意できることがある。今回のケースでも土地を町が買って、民間が建設と運営をしていけば固定資産税も入ってくるので議会からの反対も無くなるだろう。ただし、人口規模から計算するとそこまで採算が取れないから、手を挙げる民間企業はなかなかないだろう。要するに町は何が欲しいのか、町長さんがこういうのが欲しい、企画まちづくり課が中心となってこういうのをやりたいという絵を描かないと我々が意見を言ってもなかなか無責任な意見しか言えない。D（委員）さんの描かれた絵もいいなと思ったけれど、これを本当に運営して、投資して回収できるかと考えたとき、人口をみたらちょっと難しいのではないかなと思う。土地のロケーションは100%なのでそれを生かすとよいから、水利権の問題もあるだろうが県などの協力を得て、総合的にやっていけるとよい。

- ・確かに行政は変わった。市や町が購入した土地を貸す、それが現実議会議会を通してしまった。だから民間と合意できるものがあればやれるはずだ。ただし外食産業など他の業態と合わせてその一部を負担するのであれば別だが、人口を考えるとスポーツクラブだけでは厳しい。（C委員）

- ・C委員から事業者側から見た出店の見込みと、それを可能にする行政支援についての意見をいただいた。今回D委員からグランドデザインを提案いただいているので説明していただく。

- ・町に頼まれたのではなくて、自分の思いで作っているの、ご理解いただきたい。経営的な部分で採算が取れるかという意見があったが、この絵は川辺町がこの環境をどのように利用するのが重要だと考え、それを可視化させることで共通認識を持ちたいという意味で描いた。具体的な提案ではなく、こんな様子が窺えるようになると、町の活性化に繋がるのではないかとというガイドラインである。これまで川辺町はボート王国としてレガッタに重点を置き

てきたが、住民が直接恩恵にあやかっていないと感じている。そこでゾーニングとしてこの飛騨川をレガッタ以外の部分にカヤックやサップなどレジャーを設けて、遊歩道を交えながら一つのロケーションにしていくと良い方向にいくのではないかと考えた。そこに自然発生的に屋台など民間が勝手にやっていく形に向かっていければよい。美濃加茂市のNPOで「きそがわ日和」といった様々やイベントを企画している方は、始めは民間でここならこんな風に使ったらどうかということで取り組み、それが徐々に認められていったことで、あとになって役所も参加しながらバックアップしている。要するに採算重視で物事を進めていく方法もあるが、ロケーションが良ければ企画力のある団体が必ずついてくるということも実感しているので、開発地（工場跡地）からではなくて、まずは川辺町全体を見て川と結んでどのように変えていくかを考えていきたい。全体的なガイドラインを作っていくって遠く目標を一番先に置いて、それに向かって進む中で、手段として土地の買収や建屋の話になると思う。その全体的な資料の一つとして、皆さんの頭の中のイメージを擦り合わせていけるようこの資料を作成した。絵を描く人が誰か必要なんじゃないかなということで、今まで何度かこういった資料の提案もしてきた経験があるので、自身で一回書いてみようかと思い、作らせていただいた。（D委員）

- ・どこからアプローチしていくか、最終的に地域が潤うことができるにはどう進めていくべきか。
- ・定住人口を増やすことは難しい。昼間人口を含めて交流人口を増やしていくことを共通の目標としてまず持つべきではないか。最終的に定住人口も増えればよい。総合計画の住民アンケートでも川辺町が好きという方は9割以上、それから「まちづくり」を住民主体または行政主体のどちらで進めるべきかとの意見は拮抗していたが、住民主体という意見も非常に多かったことから計画論の段階ではできるだけ住民を巻き込んで、いろんな住民が意見を言い合える場所を持つべきではないかと思う。この3年、5年は種蒔きのシーズンと捉え、ワークショップなどで知恵を出し合って、住民が自分たちの計画として中長期的に引き継いでいていただけるような責任ある計画を立てる。実行に移すときにも住民の力が必要になってくる。行政だけでは無理だと思うので、民間やNPOと力を合わせてやっていくためには、計画段階からみんなを巻き込んでやっていくことが非常に重要だと思う。官が作る建物は将来的に維持管理コストがネックになって、結局使われなくなることが多いので、今だけでなく将来的な部分を含めてみんなで情報を持ち合って、情報をさらけ出して議論することが大事ではないか。（E委員）
- ・（本日ご欠席の）F委員からも、前回の会議で若い方の意見を取り入れるとよいとのご発言があった。
- ・今地元でもっと必要としているのは何なのか、それを聞き出す場が必要かもしれない。
- ・可視化という点で、D委員が事前資料として準備していただいたようなものを誰かがやって欲しいと思っていた。これを見て共通の目標だとか、どこに向かって何をどう作っていくのかイメージや夢が膨らんでいく。住民の方に提案するとしたらイメージを絵にすることが大切なので、企画力があってイメージを絵に描くことができる専門の人の力を借りて作ってけるとよいと思う。（G委員）

- ・一般市民で、料理人という立場から考えるとこの地域の人たちは、本当に美味しいところがあると1個150円のパンを買いに遠方からみえる。地下鉄やバスなど公共交通機関が整備された地域では15分圏内の範囲で済んでしまう。何が言いたいかというと人間一番求めるのは「衣食住」。川辺には食べるところが少ない。昨年暮れに閉店した立花さんはすごく安くてボリュームもあって美味しい定食屋さんだったのに、無くなってしまってもみんな結構困っているとはよく聞く。外食は美濃加茂や可児のレストランや回転寿司に出掛けてしまう。それが全部川辺で賄えれば、逆に外から川辺に来てもらえて、そこで何か発生することもあるのではないかと。食べることに重きを置いて、日常から川辺にご飯を食べに行こうかという人たちが増えれば、来たついでにどこかに寄って今まで見たことの無いところを見してくれる。そこに「点」が発生して、その「点」からフェイスブックやInstagramでの発信によって100人くらいが反応するから「点」が「線」になって、そんな施設があるならマルシェをしたいっていう子育てママさんなど、あつという間に人が集まってくる。日常的な消費者の目から考えていくと、大きな建物を建てたり何か整備して、というのは一般市民からすると別に必要ない。それよりも美味しいところを一つ二つ作ってくれたらいいよって感じもあるかなと思う。

(H委員)

- ・私は川辺で育って川辺が大好きで、川辺に嫁いで今も川辺にいる。そういう人、若者がこの町に残ってくれる魅力的な町になるのが第一だと思う。すごく賢い子どもや人たちがいっぱいいるけれど、地元に戻ってこない。東京や大阪で活躍している。やはり家族とか学校とか町が、良い家族として意識が高まると、きっと若い子たちは戻ってきて、川辺町にすごい良い力を発揮してくれるようになると思うので、なかなか難しいかもしれないが、人の心を育てていくといった取り組みをしつつ、こういった素晴らしいものを計画していったらよいのではないかなと思う。(I委員)

- ・委員皆さんの川辺を思う気持ち、川辺を何とかしたいといった気持ちがひしひしと伝わってきた。議会の議長として無責任な発言はできないので、しっかりと発言をさせていただいて行政の方にもどんどんけつを叩いていきたいと思っている。行政、町長から、ここの町で、この土地で何をやりたいか、どんな事業をしていきたいのかという大きな絵が示されていないため、議会も調査費については否決した。こういう会議を重ねて、町民目線の先に何があるのか考えてしっかりしたものが浮き上がってれば、私を除く8人の議員にはしっかりした説明をしていきたいと思っている。

- ・行政はこの事業を計画する段階の中で、県とか国などへの働きかけ、何回相談をしてきたのか聞かせて欲しい。

(J委員)

- ・商工会を主体とした「近未来マップ」が町に提案されたときに一度県にお話しをしている。時間を空けて、今回の町長選挙時の公約を受けて。その後に県の方に出向いた。といってもあの土地を中心に町を活性化したいという大枠的な内容なので、法律的な部分等の具体的な相談はしていない。

(事務局長)

- ・そのときは私も町長に同行していたので話しは伝わっている。借地では補助金を受けることはできないということは知っていた。やはり良いディレクタ

一を呼ばなければいけない。ここで良い仕事をしていただくために、委員にはしっかり考えていただかなければならないと思う。これがまとまった段階で、議会への説得は私が必ずしっかりやるので、しっかりしたビジョンをこの中で計画してもらいたいと思っている。お知恵を貸していただくようお願いします。（J委員）

- ・ あそこの土地とは15年くらいの付き合いがある。というのも商工会青年部として毎年夏祭り前の週に必ず草刈りしている。暑い中で草刈りする中で、当時の商工会長にここを買うことができないのかと言ったら、当時は買えない土地だということであって、年数が経過していろいろな話を聞いてるうちに頭でっかちになってしまった。今この会議で話を聞いていると果たして何が良いのかさっぱりわからない状態になっている。構想は大事だと思うが、購入するにも借りるにもお金がかかりすぎる。川の周りを整備して外から人を呼ぶこともできると思うが、それにもいろいろお金がかかると考えると、例えばゴミ処分場を作ってその熱で温水を作り、B & Gに供給して年中使えるプールにしたり、プラスアルファで温泉施設を作ったりだとか、こういうことをやっていくと採算も取れるのかなというイメージがある。ただ具体的ではないので、思いつきと言うことで捉えてもらえるといいかなと思う。

（K委員）

- ・ K委員と同じで一緒に商工会で草刈りをやっていた仲間なので、非常に辛いなという思いがあって、何とか町のものにできるのであればと思っているが投資額がびっくりするような価格なので、他で盛り上げたところに逆に長江さんがなにか出店したいと思うような周りの盛り上げをした方がよいのではないか。消防団員、町の若者の何%かは分からないが、いろいろ若い子と話をしていると約半分は独身ではないかと思う。団員は170何人かいるが、その半分に日曜の過ごし方を聞くと、「寝ていた」というのが多かった。近くに歩いていける距離にアクティビティだとか楽しめる場所があれば来てくれると思う。美濃加茂市の健康の森にはちょっとした遊ぶところとバーベキュー場があるが、シーズンになると結構予約が取れない状態なので、この案にあるバーベキューフィールドなんかも投資額が少なくて人を取り込めるのではないかという気がした。（L委員）

- ・ D委員の提案資料を見させてもらって、ここには私も好きなことばかり描かれている。ニングルテラスには結婚当初に行ったことがあって、すてきな場所だった。H委員も言われていたが、私も楽しいこととか美味しいものとか大好きなので、子ども3人を乗せて高速道路を飛ばしてでも行く。仕事は某きのご屋さんでお仕事をさせていただいているが、美味しいものを求めてすぐ遠方から来てくださるお客さんもいるので、そのようなものが川辺町でできるとよいと思う。C委員やD委員が言われていたように、私もボート競技をやっている身ではあるが、何でボートばかりという声を聞く。川辺町でもボート競技をやられている方は少なく、他のスポーツもあるので、ボートだけではなくボート以外も川辺町の皆さんにやってほしいと思った。

（M委員）

- ・ 私は行政に携わっていましたが、厳しい財政状況の中でどういう手法で土地を取得したり事業をやっていくか、それにはいろんな手法があるということもここで皆さんと共有できるとよいのかなと思った。前回紹介したP F IとかP P Pというものは、お金がないときイギリスなどで結構使われている

が、建物を民間で作ってもらって、20年間で返していったらその建物を最後は市や町が取得することもできるし、民間に売ることができるというような手法で、ほかにもいろんな手法があって運営は民間がやるとか、運営は行政がやるとかそういうものもある。そういうものを研究できればと思うが、それにはまず何をやるか決めないと、どの手法を使うのかも決まっていけない。E委員のおっしゃるとおり、これに参加したいと持っている方がもっといると思う。川辺町ふるさと愛好会のような団体があるのであれば、そういう方からもどんどん意見を聞く場を持たなければならない。住民が盛り上がっていけば、議会は住民の代表なので自ずと住民の方向に向いていくと思う。今はそれが見えていないから議会はうんと言えないと思うので、それをいつまでに出すのかということも問題だが、今年度中にどこまでやるのか、来年の6月議会までに何をやるのかというスケジュール感を持って対応しなければいけないと思う。（N委員）

- ・一つは議会の方で、住民を動かそうとすれば、小池さんの真似をすればよいのではないと思う。もし議会が反対であれば、町長には議会を解散する権限があるので、佐藤党というのを作ればよい訳で、きちっとそういう人を選択して議会に出せばよいと思う。6月議会だという話だが、N委員がおっしゃるとおりいつまでに何をやってどういう形にするのか、そのスケジュールは必要だと思うし、専門家、要はコンサルタントたる人がいると思う。コンサルタントはいろんなアイデアを持っているが、地域のことを全く知らなくてどこかのものを持ってきて形にしようとするから問題であって、きちっと川辺町の歴史なり史跡なり自然なり何なりすべて提供して、ここから何が考えられるのかということをも提案させる。それに対して、我々が持っているものをどんどん言っていくという場にしてもらえると、非常に充実するのではないか。お金がかかることなので分からないが検討していただければと思う。（B委員）

- ・今日の会議で委員の皆さんからいただいた様々な意見やD委員のグランドデザインを元に、次回の会議の場で事前に可視化したものをお届けするような形で、叩けるものを作るよう事務局にお願いしたい。

（6）今後のスケジュールについて

- ・事務局長から会議のお礼とスケジュールの説明。
- ・会議時間の管理がうまくいかず、意見が集約し切れていないことへのお詫びと、会議終了後の懇親会（昼食）で引き続き意見を重ねていただくようお願い。
- ・次回の会議に向けて、これまでの意見を踏まえて町（事務局）提案として見えるものを作成したい。事務局は素人なので、絵を描くためにD委員の力をお借りしたい。
- ・次回会議は12月10日（日）で事前にご案内していたが、消防団の行事と重なるため、町長を含めてこの会議に出られない委員さんもいらっしゃるから12月3日（日）に日程を改めたい。時間は同じく10時からで、会場は「川辺漕艇場」で開催したい。

（7）座長あいさつ

- ・今日の会議を終えて、もう少し具体的な方向へ行かなければならないかと感じた。長江製陶（跡地）7,000坪の土地は、川辺町にとってとても重要な土地であると皆さん思ってみえると思うので、何とかしたい。C委員さんから人

口が少ないという厳しい指摘があった。もう一つ、川辺町は企業が少なすぎる。このあたりが泣きどころになると思う。D委員からの提案にあったサップは楽しそうで、若い人たちにはよいと思う。

- ・あの土地をうまく有効にできれば、ポート関係だけでなく防災とか医療を集中的にあそこにいろいろな機能を持って来られるし、起業できる場所にもなる。何とか飛騨川左岸開発の核にしていきたい。今まで鉄道の走っている右岸ばかりが注目されてきたが、左岸の方を開発して、すぐそばにこんな施設があるよという場所にして、子どもさんが安全にそこで川遊びができたり、ちょっと年寄りが寄ってお茶したり、お風呂も入っていこうかという場所ができると川辺町のいろいろな事柄が変わってくると思う。川辺の核を持てきたいというのが我々の願いでもある。
- ・商工会の会員数は、今後10年で急激に減っていく。空き家もすでに270近くある。もっと前に進める町にしていけないと、住んでいる人も外から来る人もみんな去っていく。ここに住んでいる方も、外から来る方もわーっと多くなっていくような何かきっかけを作っていきたい。いろいろな意見をいただきながらよい方向へこの会議から持っていけるように皆さんと頑張っていきたいと思うので、どうぞよろしくお願いいたします。
ありがとうございました。

▼まとめ

- ◇前回の会議に引き続き、参加の委員からできるだけたくさんの意見をいただく機会として会議を進めた。また会場内に「川辺町」や「工場跡地」を議論していただくために写真パネルなど多くの素材を用意して、前半は委員同士で自由に意見交換をしていただけるフリートークの時間を設けた。
- ◇「工場跡地」の点からのスタートではなく、町全体を見て何をしていくのかグランドデザインを描く中で「工場跡地」を位置づけていくべき。
- ◇多くの住民を巻き込んで、計画段階から住民で責任を持って作り上げることが大切ではないか。いろいろな意見を取り込みながら住民主体のまちづくり計画を立てて、それを実行に繋げていけるとよい。
- ◇町が何をしたいのか、たたき台がないと議論も発展していかないので、次の会議では、可視化したイメージ図と一緒に事務局提案を提示すること。

▼その他

- ◇次回第3回の会議は12月3日（日）午前10時から「川辺漕艇場」で開催。